

チンタオ戦俘虜の「事件」簿



2019（令和元）年の6月28日は、パリのベルサイユ宮殿においてベルサイユ講和条約が調印されて100周年となります。条約調印後には、第一次世界大戦で日本各地の「俘虜収容所」に収容されていたチンタオ戦（日独戦争）で俘虜となったドイツ兵たちの解放手続きが進展し、年末から翌年初にかけて囚われの身から懐かしい故国や、新天地を目指して羽ばたいていきました。

今回の企画展および講演会は、長年チンタオ戦俘虜の研究が続けられている、徳島ポルトガル協会理事近藤文子氏が調査された様々な「事件」に絡む俘虜たちの人生の断片を取り上げてみました。「事件」には、微笑ましいものもありますが、大部分の「事件」は、暗く、重く、深刻なものです。これらは、当事者たちが真剣に悩み、真剣に考え、真剣に行動し日本に残した「足跡」だと思えます。

今年は、ベルサイユ講和条約調印と同じく大麻比古神社境内に「ドイツ橋」が、「板東俘虜収容所」に異国の地で命を落としたドイツ兵士を弔うための「ドイツ兵の慰霊碑」が建設されてから100周年を迎える記念の年でもあります。この機会に改めて俘虜の「事件」簿からチンタオ戦（日独戦争）について考えてみたいと思います。



講演会

チンタオ戦俘虜の「事件」簿

講師 近藤文子氏

(チンタオ戦俘虜研究者・徳島ポルトガル協会理事)

日時 5/18(土) 13:30~15:00

場所 ドイツ館 1階大会議室

企画展示

チンタオ戦俘虜の「事件」簿

期間 4/27(土)~5/26(日)

場所 鳴門市ドイツ館 2階企画展示室

入館料 大人400円 小・中学生100円

